

# 千葉市における海辺の 活性化の取り組み

千葉市 都市局 海辺活性化推進課

## 1. 千葉市の海辺

千葉市は人口約98万人の政令指定都市で、千葉県のほぼ中央に位置し、東京湾の湾奥部に面しています。

昭和中期までの本市の海辺には、遠浅の海が広がり、保養地として文人墨客に親しまれ、海水浴や潮干狩りのシーズンには多くの人で賑わっていました。高度経済成長期の埋立てによって以前の海岸は失われましたが、新たに市民にレクリエーションを提供する場所として、稲毛、検見川、幕張の3箇所に人工海浜が整備されました。その総延長は4.3kmに及び、人工海浜としては日本一の長さを誇ります（写真-1）。

いなげの浜は日本で初めて造られた人工海浜で、都心から最も近い海水浴場があり、夏季には多くの人で賑わっています。検見川の浜はウインドサーフィンのメッカとして知られ、1年を通じて様々なマリンスポーツを楽しめます（写真-2）。幕張の浜は幕張メッセやZOZOマリンスタジアムに近く、海辺を活用した大型イベントが開催されています。

また、人工海浜に隣接して稲毛海浜公園、県立幕張海浜公園の2つの海浜公園があり、東京湾の広がりと一体となった自然味あふれる広大なオープンスペースを形成しています。



写真-1 総延長日本一の人工海浜



写真-2 ウインドサーフィンと幕張新都心の高層ビル群

## 2. 活性化の取り組み -海辺のグランドデザイナー-

### (1) 「海辺のグランドデザイン」の策定

総延長日本一の人工海浜と2つの海浜公園を有する海辺エリアは、本市固有の貴重な地域資源ですが、海辺へ近付きづらい、海辺を身近に感じにくいなど、その魅力を十分に活かしていない状況

でした。また、海辺エリアは千葉県をはじめ、企業や団体等、多くの関係者がいることから、連携して活性化に取り組んでいくことが必要です。

そこで、海辺を活かしたまちづくりを効果的に進めるとともに、市民、企業・団体、行政など海辺エリアに関わる人々が主体的・持続的・発展的にまちづくりに取り組んでいくため、20～30年先の将来のあるべき姿を描き、活性化の方向性を示す「海辺のグランドデザイン」を平成28年3月に策定しました。

## (2) 「海辺のグランドデザイン」の概要

海辺のグランドデザインでは、活性化のコンセプトを「海辺とまちが調和するアーバンビーチ」と定め、将来の海辺エリアで繰り広げられるくらしのイメージを将来像として描いています。さらに、海辺エリアを地域の特性に応じた5つのゾーンに区分し、導入する機能や活性化方策の例をゾーンごとに示しています(図-1)。また、海辺を活かしたまちづくりにあたっては、民間活力の導入、既存ストックの活用、参画の促進と支援の3つの視点を軸に据えて取り組んでいくこととしています。

海辺のグランドデザインの策定にあたり、まず、千葉大学との共同研究として基礎調査を行い、海辺エリアのゾーニングの考え方の整理とゾーニング案の作成、海辺の魅力を高める施設の検討を行いました。また、公募で集まった市民や海

辺エリアで活動するまちづくり団体が参加するワークショップを開催し、海辺の将来像を検討しました。最後に、海辺のグランドデザイン(素案)について市民への意見募集を行い、いただいたご意見やご提案を反映して、海辺のグランドデザインを策定しました。

## (3) 活性化の取り組み事例

海辺のグランドデザインの実現に向けた活性化の取り組み事例を紹介します。

### ① ザ・サーフ オーシャンテラス

稲毛海浜公園は、東京湾に面した面積約83haの総合公園です。検見川の浜に接する稲毛海浜公園検見川地区には、自転車の貸し出しを行うサイクリングセンター等の施設がありましたが、施設の老朽化が進むとともに、利用者が限定される傾向にあり、滞留者数も低迷していました。

そこで、民間活力の導入により公園の魅力向上と賑わい創出を図るため、施設整備・運営を行う事業者の公募を行いました。その結果、東京湾越しに富士山や夕陽を望むことができるロケーションを活かし、レストランやイベント・展示ホールを備える「ザ・サーフ オーシャンテラス」を提案した株式会社ディアーズ・ブレインを事業者として選定しました。

事業期間を20年として市と事業者で協定を締結し、事業者は、都市公園法の都市公園施設設置

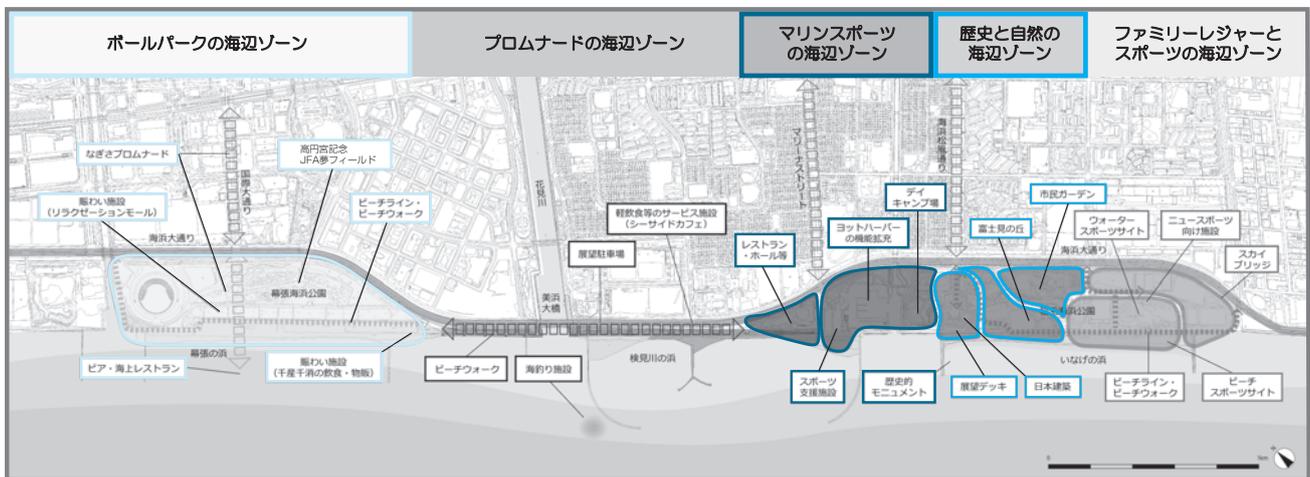


図-1 海辺のグランドデザイン ゾーニング計画図及び導入する機能の例

許可及び管理許可を市から受け、施設整備・運営を行っています（写真－3, 4）。また、施設の設置許可使用料として年間約3,700万円が市の歳入となっています。平成28年3月の施設オープン後、1年間で約94,000人の利用がある人気施設となり、当該地区だけでなく公園・海辺全体に賑わいが波及しています。



写真－3 ザ・サーフ オーシャンテラス  
①レストラン&ベーカリー



写真－4 ザ・サーフ オーシャンテラス  
②レストラン2階テラスからの眺め

## ② 稲毛海浜公園のリニューアル

稲毛海浜公園は、開園から40年が経過し、施設の老朽化が進んでいます。そこで、稲毛海浜公園検見川地区を除いたエリアにおいて、公園の持つポテンシャルを最大限に活かし、より魅力的で賑わいのある場となるようリニューアルを進めるため、「海辺のグランドデザイン」を踏まえた提案を行うこと等を条件として、事業提案の募集を行いました。

公募の結果、「INAGE SUNSET BEACH PARK」をコンセプトに、白い砂浜、グランピング施設、温泉施設、海へ延びるウッドデッキ等を整備し、

海辺の魅力向上と、日中だけでなく夕方や夜まで楽しめる公園へのリニューアルを提案した株式会社ワールドパーク連合体を事業者として選定しました。

募集にあたっては、民設民営の整備・運営を原則としつつ、市に負担を求める提案も可能としており、選定された事業者の提案は、民間投資額約38億5,000万円に対して市負担額を約26億8,000万円求めるものとなっています。既存の指定管理施設の管理形態の変更や新たな民間施設の設置等により、今後20年間で約48億円の財政効果につながる見込みであり、市の負担額を上回ることから、市も費用負担を行うこととなりました。

令和元年10月にはいなげの浜の白い砂による養浜工事が完了・供用開始され、令和2年7月にはバーベキュー場が暫定オープンしました（写真－5, 図－2）。引き続き、市と事業者で連携し、リニューアルを進めていく予定です。



写真－5 いなげの浜の白い砂浜



図－2 稲毛海浜公園バーベキュー場  
完成イメージ

## ③ 高円宮記念 JFA 夢フィールド

県立幕張海浜公園は、幕張新都心の JR 海浜幕張駅付近から東京湾にかけて広がる、開設面積約 68 ha の広域公園です。幕張の浜に面した県立幕張海浜公園 D、E ブロックに、公益財団法人日本サッカー協会による代表チームのトレーニング施設「高円宮記念 JFA 夢フィールド」が設置され、令和 2 年 6 月に使用が開始されました(写真-6)。

海辺のランドデザインでは、当該区域を、高円宮記念 JFA 夢フィールド及び隣接する ZOZO マリンスタジアムを核に、複合的なスポーツ・レクリエーション、健康と癒しに関するサービスを提供するゾーンとしていくことを目指しています(図-3)。当ゾーンにおいては、公園管理者の千葉県、施設設置者の日本サッカー協会、所在地の基礎自治体である本市といった複数の主体が関わっていますが、関係者間で海辺の将来像や活性化

の方向性の共通認識を持つためのツールとして、海辺のランドデザインが重要な役割を果たしています。今後も、海辺のランドデザインを指針として、当ゾーンにさらなる賑わい施設が導入されることを期待しています。

## ④ 検見川ビーチフェスタ

検見川ビーチフェスタは、稲毛海浜公園検見川地区の魅力をもっと多くの方に知っていただくため、地元企業・団体のご協力のもと、平成 25 年から開催しているイベントです。マリンスポーツなどの体験イベント、生演奏や踊りのステージ、フリーマーケット、飲食物販などが楽しめます(写真-7、8)。

平成 30 年度までは本市が主催していましたが、市民主体によるまちづくりの推進を目指し、検見川ビーチフェスタの企画・運営を担う実行委



写真-6 高円宮記念 JFA 夢フィールド  
© JFA / KKPO Shota Hiyoshi



写真-7 検見川ビーチフェスタ①  
マリンスポーツ体験で賑わう様子

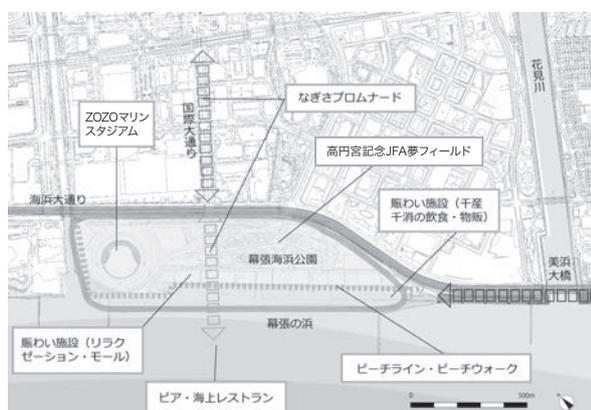


図-3 海辺のランドデザイン ボールパークの  
海辺ゾーン詳細図



写真-8 検見川ビーチフェスタ②  
フリーマーケットの様子

員の募集を行いました。その結果、地元活動団体のメンバーや海辺に愛着を持つ市民が集まり、令和元年度からは実行委員会が主催となって検見川ビーチフェスタを開催しています。

実行委員会が主催となったことで、市民目線の企画が増え、一層魅力あるイベントとなりました。引き続き、検見川ビーチフェスタ実行委員会の活動を支援していくことはもとより、海辺の活性化を主体的に取り組む他のまちづくり団体等に対しても支援を行うとともに、市民のまちづくりの意欲を高め、参画を促すしくみを検討していきます。

### 3. おわりに

海辺のグランドデザインでは、本市固有の地域資源である海辺が、都市生活のあらゆる場面で活用される新しいライフスタイルを描いています。今後も、海辺のグランドデザインの実現に向け、市民や企業・団体等の皆様と連携を図りながら、アーバンビーチとしての可能性を追求し、千葉市の魅力をさらに高めていくことを目指してまいります。